

## 第7回 安全性向上有識者会議 議事概要

### 1. 開催日

2022年6月6日(月) 14:00~16:00

### 2. 中日本高速道路株式会社 安全性向上有識者会議委員

宮川 豊章 座長、高野 研一 座長代行、池田 桂子 委員、指田 朝久 委員、  
鈴木 和幸 委員、中村 光 委員 (委員は五十音順)

### 3. 議事

「安全性向上への不断の取組み－「5つの取組み方針」に基づく取組み(2021年度)－」の報告

### 4. 議事概要(委員意見要旨)

#### (1) 「2021年度における安全性向上の取組み状況・成果等」について

○5つの取組み方針の体系を再整理し、安全を最優先とする企業文化の醸成を基盤に据えたことは評価できる。安全掲示板などによる社内外の情報共有や連携が強化され、また、各職場の所属長が自らの言葉で安全を伝え若手社員とともに現場に立ち、現場の課題を発見し改善に取組むなど、協力会社を含めたグループ一体となった安全優先の取組みが深化してきている印象を受ける。

○施工不良事案の発生は「安全より工期優先」の意識の顕れで、安全文化がしっかりと根付いていないことを示している。安全性向上を目指す土台が緩んでしまったということでは、大いに反省すべきで、コンプライアンス意識の維持、ガバナンス機能の実効性について経営陣が継続的に注視していかなければならない。

○安全文化の変化を捉えるという点では、例えば、労働災害の発生件数や安全意識調査の結果は重要なポイントとなる。調査結果により何が変わってきているのかを把握し、これらの情報を分析し、パフォーマンスを評価して示すとともに、取組みを改善していく必要がある。

○外部機関との情報交換や安全啓発館を活用した交流など、新たな視点や取組みを活用しようとする意欲が見られる。また、外部への情報発信を意識的に行い、社外の組織との有益な関係を構築しつつあるが、外部の情報収集を更に進め、事業の計画に反映させていく必要がある。安全啓発研修を完遂するのが第一であるが、今後、事業に関係する者の研修などにも安全啓発館の活用を考えていくと良い。

○安全掲示板の閲覧者が増えていることは重要なことであり、例えば、国内外の情報を共有するなどグループ内の連携が強化されている。安全掲示板の利用実態を的確に捉え、更に活用できるよう努められたい。

○人材育成では、エキスパートを育てる仕組みが機能し始めていると感じる。現場に向き合い、現場を大事にし、不安全を作り込まない、技術力を前提とした安全意識の高い人材を育成していく必要がある。

○健全性の診断の判定区分Ⅲに至った原因や対応などの情報をステークホルダーに開示することは、事業理解の促進につながるので、わかりやすく開示したほうが良い。一方で、予防保全への移行を加速させていくとともに、点検業務の支援技術等へAIを活用するなどDXを推進し、効率化・高度化に資する技術開発に取組まれたい。

## (2) 「2022 年度以降の取組みにおいて留意すべき事項（今後の取組みへのアドバイス）」について

### 【安全を最優先とする企業文化の醸成】

- 安全とコンプライアンスは双方とも重要であり、施工不良事案は、会社における安全文化の醸成が道半ばであることを示したものである。事業計画の達成が安全よりも優先されていないかという観点で振り返り、フォローアップを継続していかなければならない。また、各種研修等の中で、安全とコンプライアンスが事業運営の大前提であることを強調し、コンプライアンス意識の向上を図り、e ラーニングや内部監査などで確認していくことが必要である。
- 各職場の所属長が若手社員を直接現場で指導するなど、職場内のコミュニケーションの更なる活性化を進められたい。コミュニケーションは安全という側面だけでなく、日々の業務や経験知の伝承の基本であるため、直接的な対話を重視したコミュニケーションを充実させ、技術力向上など様々なことに活かしてもらいたい。
- 安全意識調査の結果を分析するにあたり、年代層や部署別に確認するなど工夫し、問題点を明らかにする必要がある。また、KPI は適切かつ分かりやすいものを選定し、パフォーマンスを評価して改善に繋げるとよい。

### 【安全活動の推進】

- 安全性向上の取組みの改善は、メンテナンス部門、建設部門及びサービスエリア事業部門にかかわらず、会社全体で継続的に行われていることが重要である。事業計画の見直しなどを含めて情報の開示に取り組むことが必要である。
- シンポジウムでは、オンラインでの開催が増えており、引き続き、講演の聴講やシンポジウム等への参加を推奨されたい。また、「安全性向上への不断の取組み」の情報発信は、経営陣が外部に向けて語ることが重要で、定例会見等で外部に情報発信することに努められたい。
- 現場において安全のキーとなる社員を定め、教育、受注者・発注者間のキーマンの交流を図っていくことが、安全性の向上に繋がるため導入を検討されたい。

### 【安全を支える人財の育成】

- 安全や技術のエキスパートを活用し、技術の伝承や後進の育成を更に進められたい。また、研修においては、受講生の理解度の把握に工夫を凝らし、その分析を踏まえて、研修内容などの更なる改善を図るとよい。
- 褒賞も重要であるが「人の行動変容の 60 秒ルール」というものがあり、行動の直後に「褒める」、「注意する」ことが特に重要である。褒めるか何も言わないかでは、社員のその後の行動が変わってくるので留意されたい。
- OJT は往々にして現場ごとに偏りが生じるため、教える側のコンピテンシーを定めて欲しい。

### 【道路構造物等の経年劣化や潜在的リスクに対応した業務プロセスの継続的改善】

- 現場の課題や疑問に対して、類似事例の経験者の見解・意見や知識を参考にできる仕組みの構築に取り組むことが望まれる。さらに、様々なノウハウや工夫、経験をデータベース化し検索できるシステムを構築し、不具合を未然に防ぐシステムに発展できるとよい。

### 【安全性向上に向けた着実かつ効率的な事業の推進】

- 防災への社会的関心や責任追及の風潮が高まっている。防災について事前と事後対策の検討を進め、組織として、改善すべき課題があるかどうか、一層の洗い出しを継続されたい。また、バス会社と協働したトンネル防災訓練など他分野の事業者との協働は、改善すべきリスクを洗い出す新たな視点を獲得することにつながる。

- 1 巡目の点検で健全性の診断の判定区分 I・II と診断された構造物の一部が、2 巡目の点検で III 判定に移行している状況が見られる。III 判定に移行した構造物や劣化種類の分析を進め、原因に沿った適切な措置を進められたい。また、健全性の診断の判定結果に加え、補修の状況、変状の進展の分析や対策の効果等ローカルな情報について、社会への積極的な発信を行うことによって安全に関する責任感が高まると考えられる。
- 長距離トラックなど大型車の休憩場所の確保は、大型車が関係する事故の低減にもつながる。物流業界や情報関連業種とのつながりを強化し、これらからの情報や知見を得て、イノベーションをより一層図ることを期待する。
- カーボンニュートラルは重要であり、その達成は材料面だけではなく、幅広い観点での取組みの検討を進めてもらいたい。

以 上